令和７年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人　雄和福祉会

・特別養護老人ホーム花の家
・花の家短期入所生活介護事業所（短期入所介護予防事業）
・ケアハウス花の家
・デイサービスセンター緑水苑（第一号通所事業）
・花の家訪問介護事業所（第一号訪問事業）
・花の家居宅介護支援事業所（居宅介護支援事業）
・雄和地域包括支援センター緑水苑
・認知症地域支援・ケア向上
・食の自立支援事業（配食サービス）
・はつらつ教室事業（法人独自）
・高齢者生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）

【法人総括】

懸案事項であったデイサービスセンター緑水苑相談室（地域包括支援センター）トイレ増築工事については、軟弱な地盤が判明したことにより若干工期延長もあったが無事完了。それに伴う基本財産増による定款変更についても所轄庁のご教示を受け適切に進めることが出来た。

デイサービスの実績が伸びていないため、兼ねてから検討していたとおり通常型（定員 30 名）から地域密着型（定員 18 名）へ 12 月 1 日付けで変更。併せて職員配置数の見直し、車輌を減らすなど支出を抑えるように取り組んだ。利用実績に即した定員変更だったので、利用者には大きな混乱もなかった。訪問介護も今後の事業継続のため人員補充。昨年度より訪問時間は増えているが、報酬単価が低いため収入は伸びない。逆に居宅介護支援事業所は件数が伸びていることにより収入面でも他事業所をカバーしている。本来であれば経営の中枢である特養が入退所や入院も多く、他事業所をカバーするだけの余力がなかった。居宅介護支援事業所の好調に助けられた一年であった。

課題である人材確保と定着についてはハローワークからの応募がなく、人材紹介会社経由での採用に頼らざるえない状況であった。しかし採用しても定着出来ず、短期間での退職したケースもあった。人員配置基準上の問題もあり、早急に配置しなければならず紹介会社からの採用や内部異動で対応した。手数料はかかったが、人員補充出来ない期間の人件費と紹介手数料との相殺であった。今後も優先的に人材確保に努めていきたい。

【重点事項】

（1）経営の安定

特養について昨年同様に入退所､入院者が多くショートの空床利用などで補った。

デイサービスは実績伸びず通常型から地域密着鋳型へ変更。訪問介護も報酬単価が低く件数も伸びない。居宅介護支援事業所が介護予防の直接契約を開始以降、件数、収入も伸びていることで他事業所の穴埋めをしている。

（2）専門職としての自覚と人材確保等

ご利用者、ご家族、地域住民から信頼される職員に必要な専門職として自己研鑽に努めた。昨年に引き続き賃金を含めた処遇改善に取り組み、人材確保等に繋げるように努めたが、ハローワーク経由での応募なく人材紹介会社からの採用であった。

（3）地域との結びつき

サービス向上委員会等の外部委員として参加している地域住民から意見や実情を聞くと共に、地域の各種団体と積極的に関わることで地域との結びつきを強めてきた。

（4）役員等の改選

社会福祉法に基づき、手続き等が遅延することなく適切に行うことが出来た。

法人運営（理事会・評議員会等）

１　理事会　（計６回）

第１回　令和７年６月４日

決議事項　令和６年度事業報告の承認の件
令和６年度決算報告の承認の件
定款の一部変更の件
花の家居宅介護支援事業所運営規程の一部改正（案）の件
包括支援センター事務所増築工事の件
役員の任期満了に伴う次期選任候補者の推薦に関する件
評議員選任・解任委員会の任期満了に伴う次期委員選任の件
令和７年度定時評議委員会の開催に関する件

第２回　令和７年６月 20 日

決議事項　理事長の選定の件
業務執行理事の件
評議員の任期満了に伴う次期選任候補者の推薦に関する件
評議員選任・解任委員会の開催に関する件

第３回　令和７年 10 月６日（書面決議）

決議事項　公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団による令和７年度施設整備等助成金の受託の件

第４回　令和７年 11 月 12 日（書面決議）

決議事項　デイサービスセンター緑水苑の（通常型）通所介護及び第一号通所事業の廃止（案）の件
デイサービスセンター緑水苑の地域密着型通所介護及び第一号通所事業の開始（案）の件

第５回　令和８年１月 22 日

決議事項　定款の一部変更の件
令和７年度第一次資金収支補正予算（案）の件
令和７年度臨時評議委員会の開催に関する件

第６回　令和８年３月 17 日

決議事項　定款の一部変更の件
令和７年度第二次資金収支補正予算（案）の件
令和８年度事業計画（案）の件
令和８年度資金収支予算（案）の件
就業規則の一部改正の件
職員給与規程の一部改正の件
令和７年度定時評議委員会の開催に関する件

２　評議員会　（計３回）

定時評議員会　令和７年６月 20 日

決議事項　令和６年度決算報告の承認の件
定款の一部変更の件
役員の任期満了に伴う選任に関する件

臨時評議員会　令和８年１月 30 日

決議事項　定款の一部変更の件
令和７年度資金収支補正予算（案）の件

臨時評議員会　令和８年３月 26 日

決議事項　令和７年度第二次資金収支補正予算（案）の件
令和８年度事業計画（案）の件
令和８年度資金収支予算（案）の件

３　監査会　（計２回）

日　時　令和７年５月 27 日
事　項　令和６年度事業報告について
令和６年度計算関係書類及び財産目録について

日　時　令和７年 10 月 28 日
事　項　令和７年度上半期事業報告について
平成７年度上半期計算関係書類について

４　役員研修

（１）令和７年度秋田県経営協セミナー（前期）
期　日　令和７年８月９日
場　所　秋田キャッスルホテル
参加者　丸山理事長

（２）秋田県経営協中央ブロック協議会・秋田市分科会
期　日　令和７年８月 26 日
場　所　秋田パークホテル
参加者　丸山理事長

（３）北海道・東北ブロック社会福祉法人経営者協議会
令和７年度北海道・東北ブロックセミナー
期　日　令和７年 10 月 23 日、24 日
場　所　秋田キャッスルホテル
参加者　佐々木理事（施設長）

（４）令和７年度秋田県経営協セミナー（後期）
期　日　令和８年２月 20 日
場　所　アキタパークホテル

参加者　丸山理事長

5　運営会議　（毎月１回開催）

6　法人の委員会

（1）サービス向上委員会（計２回）

令和７年５月 30 日

令和６年度後期の苦情に関する状況報告と意見交換

令和７年 11 月 14 日

令和７年度前期の苦情に関する状況報告と意見交換

（2）衛生委員会（計 12 回）

産業医を交えて安全管理や法人職員の健康管理等について委員会を毎月開催。
年１回の職場研修会も開催。

（3）広報委員会

広報発行＊雄和地域全戸配布、関係機関や福祉施設等に送付

令和７年８月７日　「花の家だより」42 号発行　2,100 部
令和８年２月５日　「花の家だより」43 号発行　2,100 部

7　その他

（1）公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団による令和７年度施設整備等助成金受託

助成金額　1,260,000 円

（2）秋田県医療・介護・福祉施設省エネルギー化支援事業費補助金受託

補助金額　1,346,000 円

7　職　　員（R８年3月３１日）

職　　種	特養	短期入所	ケアハウス	通所介護	訪問介護	居宅介護支援	包　括支援センター	合計
管　理　者	1		⑴	1	1	1	1	5 （1）
事　務　員	4		⑴	0	0	0	（1）	4 （2）
相　談　員	1		1	1 （1）	0	0	0	3 （1）
介護職員 訪問介護員	24		1	4	4 （1）	0	0	３３ （1）
看護職員 機能訓練指導員	5 （1）		0	1 （1）	0	0	0	6 （2）
管　理 栄　養　士	2		（1）	0	0	0	0	2 （1）
主任介護 支援専門員	1		0	0	0	3 （1）	（1）	4 （2）
介護支援 専　門　員	0		0	0	0	0	0	0
保健師（看護師）	0		0	0	0	0	1	1
社会福祉士	0		0	0	0	0	1	1
認知症 地域支援推進員	0		0	0	0	0	1	1
生活支援コーディネーター	0		0	0	0	0	1	1
技能員等	5		1	1	0	0	1 （1）	9 （1）
宿　直　員	3		0	0	0	0	0	3
登録ヘルパー	0		0	0	2	0	0	2
嘱　託　医	1		0	0	0	0	0	1
産　業　医	1		0	0	0	0	0	1
合　　計	**48**		**3**	**8**	**6**	**4**	**6**	**75**
※参考 R７年３月	48		3	9	4	4	5	73

・（　）兼務職員

・令和８年３月末

介護職の介護福祉士取得率　（特養100%、通所75%、ヘルパー50%）

法人職員の介護支援専門員資格保持者（特養６名、デイ１名、居宅４名、包括３名、）

特別養護老人ホーム花の家（短期入所生活介護事業所含む）

【総　括】

稼働率96.5%と目標数値の98%に届かなかった。入所は25名、退所も25名となり開設以来最多となったが、空床期間短縮を念頭に入退所調整を行い、空床期間は短期入所の利用で減らすことが出来た。入院者数も昨年度より多く、延べ34名だった。入院の理由として誤嚥性肺炎、心疾患や元々の基礎疾患の悪化によるものである。退所者25名のうち、施設での看取りの方が16名、医療機関で亡くなった方、転院した方が９名と看取りの割合が半分以上となっている。

感染症の集団発生もなかったことから直接面会を年度通じて継続できた。ご利用者もご家族も喜ばれていた。

短期入所事業は１日平均6.8人（稼働率97.8%）で目標数値１日平均6.5人を達成することが出来た。長期利用者の受け入れと特養の退所や入院による空床を利用し、稼働率を維持することが出来た。今後もより稼働率の安定に努めていきたい。

【重点事項】

（１）ご利用者に寄り添ったサービスの提供と介護職員の負担軽減

ご利用者やご家族のご意向を確認し、サービス担当者会議を定期的に年２回開催。その他にも介護保険認定の更新や退院時、状態悪化時にも随時開催した。アセスメント、モニタリングを行い、ケアプラン作成や各部門との連携、協同によりご利用者に寄り添った支援へ繋げる事が出来た。新規入所の際には不安の無いようにご利用者やご家族に丁寧な説明を心掛けた。

終末期における支援として、ご利用者及びご家族の要望に沿えるように出来る限り対応した。今までの生活を変えることなく、他のご利用者がいる中で見守りを行い、穏やかな最期を迎えられるように支援することが出来た。ご家族への支援としていつでも面会に応じる事や宿泊準備を整えていることをお伝えし、安心して頂けるように努めた。最期に立ち会われたご家族からは温かい言葉を頂戴した。ご利用者だけでなくご家族に対しても身体的、精神的負担の軽減に努める事が出来た。

日々の業務の中でご利用者の体調が普段と違いはないか観察に努めた。状態にあった判断を行い他職種と連携した対応が出来た。

科学的介護情報システム（ＬＩＦＥ）については、定期的に情報を提出することが出来た。また、フィードバックをサービス担当者会議や月例報告会で活用し、よりよい支援につなげることが出来た。

介護記録の電子化については、記録の効率化とスムーズな情報の共有化に繋げることが出来ている。日々見直し、今後もより業務の改善に努めていく。

（２）事故防止と感染症対策に努める

委員会でヒヤリハット・事故報告を基に事故を検証、再発防止に努めた。骨折事故等なかったが、転倒、転落の事故件数は多く、都度対応について検討している。

コロナウイルス感染症やインフルエンザの施設内感染等なく経過した。今後もマニュアルの見直し、内部研修や申し送り等で職員に意識付けや対応力の強化に努めていきたい。

（３）専門職としての責務と人材育成

研修はオンラインで実施しているものが多くなり、タブレットやWi-Fi等環境を整え、積極的に研修参加を促している。その他にも外部講師を招いての身体拘束・虐待研修や施設内で毎月の職員会議での研修を開催した。福祉職員としての質の向上に取り組むことが出来た。

医療的ケア（痰の吸引と経管栄養）では、安全に実施するために委員会での確認を行った。実地研修については時間を作って行うことが出来ており、未修了者の修了を目指している。来年度も新たな職員の実地研修を行っていきたい。

今後も看取り介護を希望される方が増えていく中で、ご利用者の状態観察や引き継ぎが重要な部分を占めていく為、職員間での情報交換を密に行っていきたい。

職員自ら専門性の向上を目指し、ご利用者、ご家族からも信頼される職員となるように努めていきたい。

（4）非常事態発生時の危機管理に努める

防災訓練は年間計画通りに実施。夜間想定避難訓練は消防署員が立会い、良い評価を頂いた。土砂災害想定避難訓練では体調不良者を除く全利用者を１次避難場所である交流スペースへの避難誘導を行った。実際に誘導してみて待機スペースの状況などを確認することができ、次のステップに繋がる訓練となった。また、近隣自治会からも参加してもらうことができ、協力体制を築くことが出来た。BCP に基づきより実践的な訓練を行って話し合いを行い見直している。

（5）稼働率の安定を図る

今年度は退所者数25名、入院者数延べ34名と前年度より多かった。新規入所までの期間短縮を意識しながら受入れを進めて、平均空所日数は前年度よりも短くできた。また、空床を短期入所で利用することで空床期間を少しでも減らすよう努めた。しかし、入院者数も多く、退所が集中すると受け入れに時間がかかってしまい、年間稼働率96.5%と目標数値（98%）には届かなかった。入所申込者も毎年減少しており、入所者の確保も課題になっている。

ショートステイは１日平均6.8人（稼働率97.8%）、新規にご利用者15名との契約締結が出来た。長期利用と特養の空床利用により利用日数が増え目標数値6.5人を達成することが出来た。

今後もご利用者一人ひとりの観察の充実を図り職員間の連携を密にしたサービス支援に努め、稼働率の安定を図りたい。

【各部門総括】

（1）相談員・介護支援専門員部門

令和７年度は25名の利用者が退所された。そのうち施設で看取った方は16名であった。施設での看取りを希望される方には看取りの指針の説明、看取りプランを作成し、本人や家族の意向に沿えるように支援を行った。亡くなられた後には弔問に赴き、施設生活の様子を伝える等、死後のケアとして家族支援に努めた。また偲びのカンファレンスを開催。振り返りを行い、より良い支援への糧としている。

新規入所は家族や他事業所と連絡調整を密にしてスムーズな入所に繋がるように努めた。入所前に事前訪問、アセスメント実施し、本人、家族の意向を確認している。施設入所についての説明はご利用者及びご家族に安心してもらえるように懇切丁寧に行っている。

入所されている利用者のケアプランについては本人へのアセスメント、各専門職の意見を聞いて作成している。サービス担当者会議、モニタリングは６ヶ月に１回と退院時や更新・区分変更等の必要時に開催している。サービス担当者会議は家族の参加が難しい場合は意向を伺い、職員のみで開催した。退院時など状態変化時はなるべく参加してもらい、情報を共有出来るよう努めた。

ボランティア等の受け入れは感染対策を行い、希望に応じて受け入れをした。交流スペースに地域のサークルの手芸や利用者家族の作品を展示し、利用者や来客者に関心を持ってもらうことができた。

面会は予約制で、時間、場所に制限を設け、感染症に注意を払って実施した。

ショートステイの受け入れは居宅の介護支援専門員と連絡調整している。

特養		ショートステイ	
入所割合平均：稼働率（%）	96.5%	年間平均（人）	6.8 人
担当者会議/プラン策定	68 回 /157 件	担当者会議/プラン策定数	34 件
入所者（人）	25 名	新規契約者数	15 人
退所者（人）	25 名		
平均要介護度	3.9		

（2）介護部門

施設サービス計画書に沿って支援を行い、利用者の状況に合わせて変更し対応した。しかし援助内容の変更が周知されていないことがあり、改めて申し送りにより統一した支援を行うよう努めた。

介護技術や方法、認知症の理解についても相互に確認し、ご利用者のペースに合わせた対応を心掛けた。しかし落ち着かない利用者の対応の際には気持ちの余裕がなくなり、言葉遣いが荒くなることや声掛けが不足してしまうことがあった。

記録の電子化については記録時間の短縮と支援記録以外にも様々な記録をシステムに集約し、情報の共有もより効率的に出来るようになってきている。日々見直しを行いながら、より効率的な記録と情報共有をスムーズに出来るよう改善していきたい。

行事に関しては演芸や竿灯の慰問の受入れ、敬老式ではご利用者家族を招待し、行うことが出来た。感染症や添乗職員の確保が難しく外出は出来なかったが、施設内でご利用者が楽しめるよう居室内や廊下等の装飾や行事をブロック担当制にし、全ブロック共通で一緒に楽しむことが出来るよう工夫をして行うことが出来た。

喀痰吸引、胃瘻による経管栄養等の医療行為を安全に実施するために委員会等で確認を行った。今年度も実地研修を継続してすすめており、来年度も新たな職員に研修を行っていきたい。

口腔に関して、口腔の健康状態の評価及び情報共有書を毎月提出し、定期的に歯科医による研修も行っている。

（3）医療部門

定期的なバイタルサイン測定や生活状況の確認を行い、入所者の状態把握と異常の早期発見に努めた。異常を認めた際には速やかに嘱託医へ報告し、指示を受けて対応することが出来た。また、日常的な申し送りや記録を通じて情報共有を行い、基本的

な連携体制を維持した。緊急時においても口頭での申し送りを行い、迅速な情報共有に努めることが出来た。

感染症対策については、コロナウイルス感染症やインフルエンザの施設内感染は起きることなく経過した。感染症対策委員会と連携し、マニュアル作成や研修の実施に関わることで職員の感染予防の意識の向上と対策の徹底に努めた。入所者の定期健診（特養・ケアハウス）および職員健診についても、大きなトラブルなく実施することが出来た。

定期的にケアハウスのサービス担当者会議に参加し、情報共有と医療的視点からの助言を行った。

看取りケアにおいては、ご本人およびご家族の意向を丁寧に確認しながら対応することが出来た。今後も引き続き、穏やかな看取りケアの提供とともに、ご家族へのグリーフケアにも配慮していきたい。近年、がん、腎不全、心不全等末期の症状など苦痛を伴ってしまう看取りのケースが増えており、医師との連携をより一層深め、施設で対応可能なケアの質をどのように充足させていくかが今後の課題である。

集団リハビリについては、看護師が中心となって実施には至らなかったが、入所者の既往歴や慢性疾患の状態を評価し、集団リハビリへの参加の可否や負荷について、随時相談に応じることが出来た。

今年度新しい看護師も加わり、看護師それぞれの経験や知識を活かして連携を密にしてより良い業務につなげていきたい。

（4）事務部門

法令に従い理事会及び評議員会を開催することが出来た。決算処理については会計基準に従い適切に処理を行い、現況報告・計算書類等についても財務諸開示システムを用いて遅延することなく公表し、法人運営の透明性を図った。

予算執行状況の把握・分析をより具体的に行えたことで各事業所の収入増及びコスト削減の意識が高まり、各事業所・各部門との連携をより密にし、業務の円滑化を図ることが出来た。

（5）給食部門

超高齢者が増えている現状において誤嚥性肺炎のリスクも高くなる中、迅速な食事形態、食事量の変更と補助食品の活用で誤嚥や事故防止に努めた。

毎月のモニタリング、３ヶ月毎のアセスメントとスクリーニングを低栄養状態のリスクに関わらず入所者全員に対し、実施することで低栄養状態の予防、改善、重度化防止に努めた。さらにご利用者の食べることへの意欲向上に努めるとともに、身体機能、生活機能の維持に努めた。

害虫駆除月１回毎、グリストラップ、排水溝清掃３ヶ月毎に実施し、休憩室も当番制で掃除を行い、マスク着用の徹底をして衛生保持に努めた。厨房から食中毒やノロウイルス等なく経過した。

11 月 11 日に災害訓練食の日を設け実施。ご利用者及び職員に意識付けが出来た。備蓄品を消費期限内に随時使用し、更新した。

毎日の食数確認で確定数は提供出来たが、付け間違いや付け忘れがあった。髪の毛等の異物混入は２件あった。委託側へ随時書面で提示することすることで速やかな改善に努めた。

利用者家族より寄付された食材を有効利用して提供出来た。

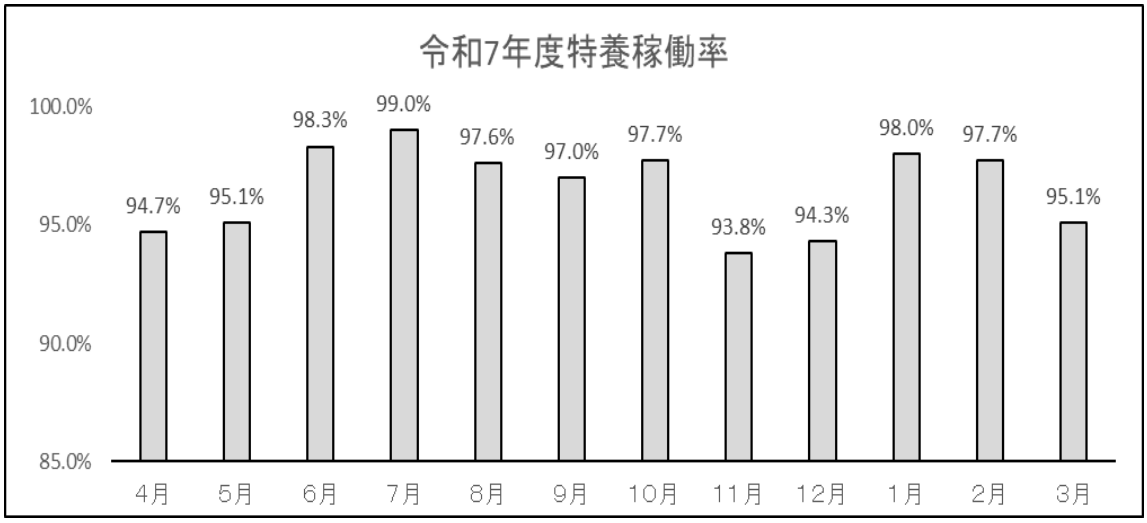
施設での看取りを希望されるご利用者が増える中、危険なく可能な限り希望を聞き、家族にも協力してもらい最期まで食事の提供に努めた。

意思疎通の取れない方への満足度の図り方については家族にも協力願い、探求心を持って引き続き取り組んでいく。

【年間資料】

(1)特養入所利用状況及び入退所状況(入所定員 58名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
実人数(人)	54.9	55.1	57.0	57.4	56.6	56.3	56.6	54.4	54.7	56.8	56.6	55.1		56.0
稼働率(%)	94.7%	95.1%	98.3%	99.0%	97.6%	97.0%	97.7%	93.8%	94.3%	98.0%	97.7%	95.1%		96.5%
延在床数(人)	1,649	1,710	1,712	1,780	1,756	1,689	1,757	1,633	1,696	1,763	1,587	1,710	20,442	1703.5
入院者数(人)	6	1	1	3	4	2	3	4	3	0	4	3	34	
退所者数(人)	3	3	1	0	1	2	2	3	4	2	2	2	25	
入所者数(人)	3	4	1	0	1	0	3	2	5	3	0	3	25	



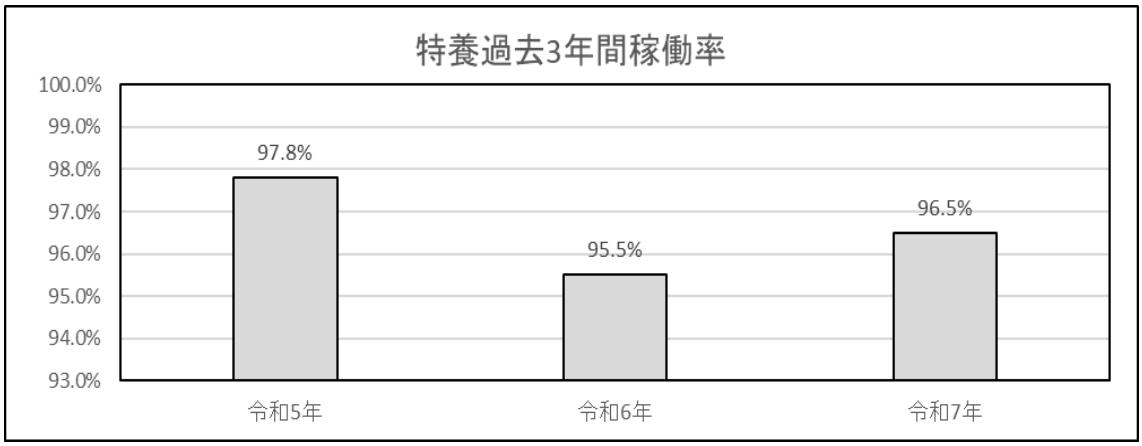
（2） 空床状況

	R5 年度	R6 年度	R7 年度
入院	234 日	400 日	339 日
外泊	0 日	0 日	0 日
退所による空床	218 日	553 日	389 日
合計	452 日	953 日	728 日
新規入所までの日数	15.2 日	22.5 日	15.5 日

※R6 年度ショートステイ空所利用 225 日

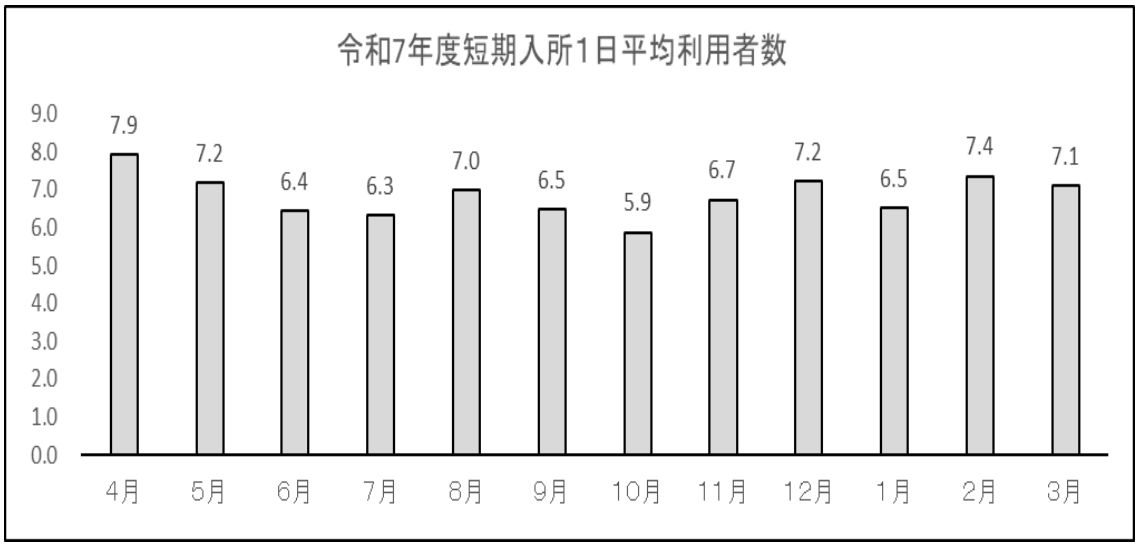
（３）特養過去３年間稼働率

	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
人数	56.7	55.4	56.0
稼働率	97.8%	95.5%	96.5%
退所	15	23	25
入所	14	23	25



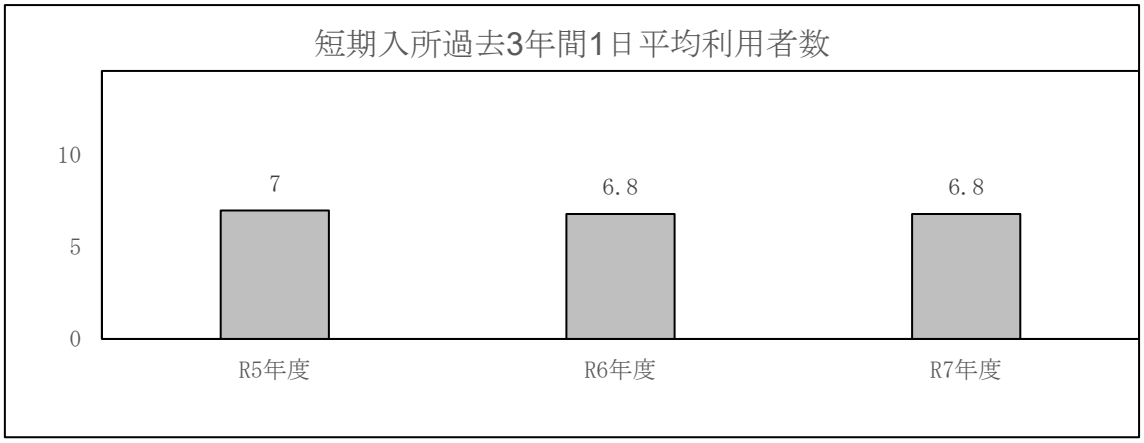
(4)短期入所利用状況(定員7名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
延べ人数(人)	238	223	193	196	217	194	182	202	224	202	206	220	2,497	207.0
1日平均(人)	7.9	7.2	6.4	6.3	7.0	6.5	5.9	6.7	7.2	6.5	7.4	7.1		6.8
稼働率(%)	113.33%	102.76%	91.90%	90.32%	100.00%	92.38%	83.87%	96.19%	103.23%	93.09%	105.10%	101.38%		97.80%
新規契約(人)	1	2	1	2	3	2	2	0	1	1	0	0	15	



（５）短期入所過去３年間１日平均利用者数及び稼働率

	R5 年度	R6 年度	R7 年度
１日平均利用者数	7.0	6.8	6.8
稼働率	100.0%	97.6%	97.8%



（６）特養入所契約者年齢別人員（R8.3.31 現在）

在籍数＼年齢区分		65～69 歳	70～79 歳	80～89 歳	90～99 歳	100 歳～	平均年齢
男	9 人	0	0	5	4	0	87.7 歳
女	48 人	0	2	15	29	2	90.7 歳
合計	57 人	0	2	20	33	2	90.2 歳

最高年齢　女性 100 歳５ヶ月　　男性 90 歳４ヶ月
最低年齢　女性　74 歳８ヶ月　　男性 82 歳４ヶ月

(7)要介護度別人員(R8.3.31現在)

要支援	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均要介護度
0	0	0	18	25	14	57	3.9
男0 女0	男0 女0	男0 女0	男4 女14	男3 女22	男2 女12		
0.0%	0.0%	0.0%	31.6%	43.9%	24.6%		

(8)地域別入所状況

入所前住所	雄和地区	河辺地区	旧秋田市	その他	合計
R8年3月31日現在数(人)	48	1	6	2	57

(9)入退所状況

退所事由	転院	病院で死亡	施設で死亡	在籍期間	1年未満	1～5年未満	5年以上
(人)	4	5	16		8	15	2
入所前の	在宅(ショート)	老健・グループホーム等	病院	入所時	要介護3	要介護4	要介護5
状況(人)	19(19)	4	2	要介護度	12	8	5

(10) 入所待機者状況 (R8.3.31 現在)

男性	15 名	女性	35 名	合計	50 名

(11)委員会実施状況

委 員 会 名	開催数
研修委員会	3回
行事企画委員会	8回
給食委員会	6回
感染症対策委員会	6回
排泄・褥瘡防止委員会	5回
防災対策委員会	5回
サービス改善委員会	5回
事故防止検討委員会 (発生事故検証会)	5回 (2回)
入所調整委員会	2回
医療的ケア対策推進委員会	6回
身体拘束適正化委員会	5回
虐待防止検討委員会	5回
栄養・口腔衛生委員会	3回
広報委員会	3回

(12)内部研修会(職員会議時)

開催月	研修内容
4月	法令遵守・事業方針・ハラスメントについて
5月	感染症について
6月	事故防止について
7月	食中毒について
8月	身体的拘束等適正化・虐待防止について ※外部講師
9月	感染症BCPについて
10月	防災・緊急時体制・BCPについて
11月	看取り介護について
12月	褥瘡の予防について
1月	身体的拘束等適正化・虐待防止について
3月(施設内研修)	認知症について、事故防止について、自己評価表について

(13) 会議･行事･ボランティア等の状況

	職員会議	月例報告	会議（介護職）	行事・ボランティア等	行事食
4月	23日	22日	各ブロック会議 チーフ会議	年度始め式（1日） 夜勤職員検診（3日）	開園記念祝い膳 （1日）
5月	21日	20日		協議体花植えボランティア（9日） 聖霊高校清掃等ボランティア（23日） サービス向上委員会（30日）	母の日祝い膳 （11日）
6月	25日	19日		理事会（4日） 評議員会（20日） 民協草刈りボランティア（21日） 入所者一般検診（26日）	父の日祝い膳 （15日）
7月	23日	22日		入所者結核検診（15日） 夜間想定避難訓練（16日） 花の家夏祭り（31日）	七夕祝い膳 （7日）
8月	20日	19日		チビッコボランティア（5日）	精進膳 （13日）
9月	24日	22日		花の家敬老式（17日） 職員健診（19日）	敬老祝い膳 （17日）
10月	22日	21日		総合避難訓練（15日） 法人中間監査（28日）	収穫の祝い膳 （10日）
11月	19日	18日	各ブロック会議	花の家秋の茶話会（5日）	ちらし寿司（5日） 防災訓練食（11日）
12月	24日	23日	チーフ会議		クリスマスランチ（24日） 年越し祝い膳（31日）
1月	21日	20日		仕事始め式（5日） 新春の集い（14日）	正月祝い膳（1日） にぎり寿司（20日）
2月	18日	17日	ブロック会議 チーフ会議		節分祝い膳 （3日）
3月	25日	17日		理事会（17日） 評議員会（26日）	ひな祭り祝い膳 （3日）

(14) 介護サービス情報の公表　令和7年11月15日

ケアハウス花の家

【総　括】

令和７年度は新規入居者５名、退居者６名だった。退居の理由として、認知機能及び日常生活動作の低下による他の介護保険施設入所や体調悪化等による入院が多くを占めている。新規入居者の申し込み理由として独居生活に不安を抱えながら生活している方が多く、中でも今まで出来ていた食事の準備や洗濯等が徐々に難しくなり栄養面においても心配な方も見受けられた。ケアハウスは概ね自立した生活が可能な方が入居する施設であるが、高齢独居世帯の急増や施設入所待ちの長期化等もあってか健康面でのリスクを抱えている方や認知機能が低下している方等、本来ケアハウスへの入居が難しい方からの申込みが多くなっているのが現状である。

残念なことに今年度は体調不良等による入院者が多く（延べ 14 名）家族や医療機関、リハビリ施設等との連絡調整に追われる日も多かった。また８月に新型コロナに１名感染した。幸いにも症状は軽く嘱託医や職員による速やかな感染拡大対策により他入居者や職員への感染を防ぐことができた。

各行事や活動については、花の家施設全体行事に加え、ケアハウス入居者を対象とした園芸活動やドライブ、外食レク等、生きがいに繋がるような活動を実施できて多くの入居者から喜びと感謝の声が聞かれた。

今後も入居者一人一人の１日をより一層大切にし、多くの方が笑顔で過ごせるように支援の手を差し伸べていきたい。

【重点事項】

（１）日常生活満足度向上への支援について

外出等の機会が少ない入居者に対し、外出ドライブや園芸活動など生きがいを感じられるような活動を多く実施し喜んでもらえた。ケアハウス菜園では枝豆、スイカ、サツマイモ栽培を試みた。高齢等により畑作業ができる方は年を追うごとに減少傾向にあるが畑の中では年齢を感じさせない生き生きした姿が見られ、普段使用している杖を鍬に持ち替えて嬉しそうに作業する姿が印象的だった。収穫後は女性入居者を中心に調理、試食会を行い収穫の喜びを味わうとともに入居者同士の親睦を深めることができた。

日々の余暇活動については、健康体操や茶話会、しりとり、折り紙、ぬり絵、パズル等の活動を中心に行い充実した日常生活に繋げることができた。

また、最近は自分の生活リズムで過ごしたいという方もおり茶話会などには参加せず自室でラジオを聴きながら脳トレを楽しみ、時間を決めて歩行訓練などを行っている方もいる。今後も多様化する入居者ニーズに可能な限り対応し日常生活の満足度向上を目指したい。

（２）生活環境の整備について

施設内の衛生管理、温度湿度管理を徹底し入居者が快適で安心できる環境作りに努めた。また個々の居室内の冷蔵庫の管理等の声掛けや冷暖房の適切な使用、定期的な換気等の声掛け支援を継続的に実施した。廊下の壁を活用し季節の装飾や外出レクや余暇活動時の写真を掲示し、思い出や季節感を味わってもらえるような工夫を継続した。

（3）感染症対策及び健康観察の充実について

入居者の平均年齢は87.8歳(３月末現在)と高齢化しており半数近くが90歳以上であることからも日常の健康管理が重要とされる。今年度も夜間や早朝等、職員不在時に体調不良になったケースが例年以上に多く、救急外来受診等の対応をした。また、多くの入居者が訪問介護や訪問看護、通所介護サービス、特殊寝台レンタル等の介護保険サービスを利用しながらケアハウス生活を維持しているのが現状である。そのため介護支援専門員及び介護保険事業所との情報交換を密に行い、入居者の健康維持に繋げている。日々の健康管理サービスとして週３回のバイタル測定と月に１度の体重測定を実施し健康状態把握に努めた。また入居者の受診日等を把握し、緊急時や家族対応が難しい入居者については通院介助を実施し入居者、家族の安心と信頼構築に繋げることができた。万が一体調不良によりケアハウス生活が困難になった場合には、ご本人及びご家族、介護支援専門員等と相談のうえ、ご本人が安心して過ごすことができる介護保険施設等への入所調整等を行った。（６名）

新型コロナに１名感染したが迅速な感染拡大予防対策により感染拡大は阻止できた。他にも感染症対策として雄和もてぎクリニックの協力を得てインフルエンザのワクチン接種を実施した。日常生活では入居者にも手洗いうがいの実施、共有スペースでのマスク着用等、感染症予防への理解、協力をいただき健康的な生活に繋げている。

（4）災害等に備えた危機管理体制の構築について

近年増加傾向にある自然災害や火災等に備え事業継続計画（BCP）に基づき避難訓練等を実施し入居者の安全な生活に繋げる体制を充実させた。また職員を対象とした緊急連絡訓練を実施し緊急時に備える体制構築をした。

１　年間行事活動報告

月	日	行事名等	内容・場所	参加者
４月	14 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	４名
	17 日	外出レク（花見）	勢至公園～ねむの丘～天鷺城	４名
	22 日	〃	ハーブワールドAKITA～天鷺城	４名
	30 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	10 名
５月	９日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	２名
	26 日	園芸活動	ケアハウス菜園（畝作り、枝豆定植)	８名
	29 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	３名
	30 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	10 名
６月	９日	園芸活動	マルチング、サツマイモ苗植え	８名
	17 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	８名
	26 日	入居者一般検診	検診車	
	27 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂(次月予定確認等)	10 名
７月	７日	園芸活動	ケアハウス菜園（枝豆土寄せ)	４名
	９日	外食レク	くら寿司	６名
	10 日	〃	南部屋敷	４名

	14 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	３名
	15 日	入居者結核検診	検診車	
	30 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	10 名
８月	４日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	３名
	５日	ちびっこボランティア	小学生ボランティアとの交流	
	13 日	園芸活動	ケアハウス菜園（土寄せ、除草）	４名
	27 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	４名
	28 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	11 名
９月	10 日	園芸活動	ケアハウス菜園（枝豆収穫、試食）	９名
	13 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	２名
	29 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	８名
10 月	８日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	１名
	10 日	誕生会	入居者 101 歳の誕生祝	
	17 日	園芸活動	ケアハウス菜園（サツマイモ蔓切）	４名
	23 日	〃	ケアハウス菜園（サツマイモ収穫）	10 名
	29 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	１名
	30 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	８名
11 月	７日	園芸活動	干し柿作り	９名
	11 日	外出レク	角館武家屋敷～道の駅協和	４名
	12 日	〃	〃	５名
	14 日	予防接種	インフルエンザワクチン	
	21 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	３名
	27 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	11 名
12 月	８日	園芸活動	サツマイモ大試食会	
	10 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	２名
	23 日	クリスマス忘年会	食堂（折詰、寿し、クイズ、抽選会）	12 名
	24 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認等）	11 名
１月	30 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	２名
	30 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認）	10 名
２月	13 日	健康教室	腸活で免疫力を高める	10 名
	27 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認）	10 名
３月	４日	外食レク	南部屋敷	５名
	６日	〃	くら寿司	５名
	16 日	買い物＋代行	御所野スーパーセンターアマノ	５名
	31 日	打ち合わせ会	ケアハウス食堂（次月予定確認）	11 名

2　全体行事、その他

月	日	行事名	内容・場所
7月	16日	避難訓練（夜間想定）	夜間の火災を想定した避難訓練に参加
7月	31日	竿灯ボランティア	国際教養大学竿灯会
9月	17日	敬老式（全体行事）	敬老式と演芸（民謡等）を楽しむ
10月	15日	総合避難訓練（BCP訓練）（土砂災害想定）	土砂災害を想定した避難訓練に参加
11月	5日	秋の茶話会（全体行事）	食堂ホールで茶話会(スイーツ)を楽しむ
1月	14日	新春の集い（全体行事）	ナマハゲと神主､巫女に扮した職員が訪問し伝統行事を楽しむ

○月～金の活動　健康体操　10:00～（民謡音楽に合わせて）
茶話会　10:30～（しりとり、塗り絵、脳トレ等）
余暇活動　15:00～（トランプ、パズル、オセロ等）

3　入退居及び入居者状況

（1）入退居状況（入居５名、退居６名）

入居	6/1 （女性1名）	9/1 （男性1名）	11/1 （女性1名）	2/1 （女性1名）	2/27 （女性1名）	
退居	5/11 （女性1名）	6/2 （男性1名）	8/3 （男性1名）	10/12 （女性1名）	1/17 （女性1名）	2/6 （女性1名）

（2）年齢別・性別の状況（R8.3.31現在）

区　分	男　性	女　性	計	割　合
60～69歳	0	0	0	0.0%
70～79歳	0	1	1	7.7%
80～89歳	1	6	7	53.8%
90歳以上	0	4	4	30.8%
100歳以上	0	1	1	7.7%
計	1	１２	１３	
平均年齢	84歳	88.1歳	87.8歳	

（3）入院、短期入所利用状況
・入院者数（延べ人数）～14名
・短期入所利用者数（延べ人数）～９名

4　過去３年間状況

（1）在籍数（各年度末日現在）

	男性	女性	計
R５年度	3	10	13
R６年度	2	12	14
R７年度	1	12	13

（2）介護認定状況（各年度末日現在）

	未認定	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
R5年度	1	1	3	6	2	0	0	0
R6年度	0	4	1	5	4	0	0	0
R7年度	0	3	1	4	4	1	0	0

（3）年齢別・性別状況（各年度末日現在）

		60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	100歳以上	合計	平均
R5年度	女	0	1	3	6	0	10	88.6歳
	男	0	1	0	1	0	3	
R6年度	女	0	0	5	5	1	12	89.4歳
	男	0	1	0	2	0	2	
R7年度	女	0	1	6	4	1	12	87.8歳
	男	0	0	1	0	0	1	

（4）事故・ヒヤリハット件数

	R５年度	R６年度	R７年度
事故・ヒヤリハット	1	0	1
苦情	0	0	0

6　その他

（1）軽費老人ホーム事務費補助金当初交付申請（４月）
〃　概算払請求（６月、７月、11月、１月）
〃　変更交付申請、請求（２月、３月）
〃　実績報告（３月末）
（2）軽費老人ホーム利用状況報告書（毎月）
（3）サービス担当者会議（６月、12月及び新規入居時）
（4）職員会議、運営会議、月例報告会（毎月）
（5）各委員会及び研修会（定期＋必要時）
（6）サービス向上委員会（第三者委員）５月、11月
（7）入居希望見学者対応（17件）、問い合わせ等（38件）

地域密着型デイサービスセンター緑水苑（第一号通所介護）

【総　括】

令和７年度は新規契約者が 18 名、デイサービスを体験利用された方が 10 名おり、全ての方と契約を結ぶことが出来た。しかし、現在ご利用の方が疾病等により在宅での介護負担が大きい場合には、医療機関や他の介護施設に入所され、利用登録から外れるケースがある。新規契約者は週１～２回から利用を開始することが多く、複数回利用されていた方の穴を埋めきれなかった。

利用登録者の減少に伴い、12 月から報酬単価の高い地域密着型デイサービスセンターに移行した。各介護度により 95 単位～164 単位と介護報酬の単価増額になることから少しでも赤字幅の減少に取り組んだが、赤字幅を縮めることが出来なかった。年間の平均利用者数が 4～11 月 19.1 名 12～3 月 15.0 名であった。

ご利用者確保の取り組みとしては、雄和地域の病院、薬局、金融機関、理髪店、スーパー、飲食店にポスターの掲示をお願いした。秋田市内の医療機関や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターに対しては、デイサービスの利用空き情報、送迎範囲地域を改めて伝え情報提供を行った。

「機能訓練プログラムソフト モフトレ」については、生活課題に合わせた機能訓練をモニター通し機能訓練指導員と一緒に身体を動かすことができた。利用者全体で行う時や、小グループ化で行うなどゲーム感覚で楽しめることも出来た。また、ご利用者毎に訓練の実績レポートを作成し、ご家族や居宅介護支援事業所には実績評価としてレポート提出している。担当ケアマネジャーやご家族からは、レポートの見やすさと訓練の実施回数を確認できるため喜ばれていた。

苑内のアクティビティについては、季節に合った行事の開催や毎日多彩な内容でご利用者の皆様に楽しんで頂いた。外部の演芸慰問、ボランティアは、定期的に介護支援ボランティアの受け入れや秋田市内で活動している演芸団体等へ依頼をするなど調整を図ってきた。雄和地域の保育所との交流も継続できた。子供たちの演技に涙しているご利用者もいた。今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い楽しんで頂くように努めていきたい。

【重点事項】

（１）運営基盤の強化

「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を導入したことにより、他法人の居宅介護支援事業所等に情報提供を行い、プログラムの内容を見てもらう機会があった。口頭やポスター等で内容を伝え理解してもらったが、ご家庭の事情やご利用者のＡＤＬの低下に伴いデイサービスの利用していることから「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を売りとした新規利用者獲得には繋がらなかった。ただ、モフトレの内容が分かるように緑水苑の広告を新たに作り直し、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターに渉外活動を行った。デイサービスの利用空き情報や体験利用枠、送迎範囲地域を伝え情報提供を行った。また、雄和地域の理容室や商店、病院、薬局、金融機関にポスターの掲示をお願いした。

在宅サービス担当者会議においては、複数回の利用の提案や行事の際にお誘いするなど利用を進めた。ご利用者、ご家族の要望や事情等を踏まえ、代替日を設けるなど定期外サービス利用に繋げるなどの対応も行った。

今年度は利用登録者数の減少により、12 月より地域密着型通所介護に移行した。定

員数が 18 名と減ったが、介護報酬が介護度によりに 95 単位～164 単位と上がった。少しでも赤字幅の減少に取り組んだが、赤字幅を縮めることが出来なかった。
新規契約締結が 18 名、体験利用者が７名受け入れた。体験者７名全員と利用契約が出来た。しかし、今まで複数回ご利用頂いていた方が、疾病、入院入所、ショートステイ利用等により利用休止をせざる得ない方もおり登録者数が伸びなかった。

（2）ご利用者一人ひとりのニーズに対応したサービス提供

ご家族、ご利用者の要望に応じて、短時間での利用やご希望の時間に合わせた送迎を行った。日々の身体状況を確認しながら職員間で情報共有し、安全に過ごしてもらえるように支援した。

（3）在宅での日常生活機能向上に向けた個別機能訓練の実施

「機能訓練プログラムソフト モフトレ」を使用し、機能訓練指導員と一緒に身体を動かし、モニターを通して自主的に身体を動かしてくれた。利用者全体で行う時や、小グループ化で行うことも出来た。利用者毎に腕上げ、足上げ等の回数が集計される。その月の総合回数が実績レポートとして、ご家族や居宅介護支援事業所に提出している。担当ケアマネジャーやご家族からはレポートの見やすさと訓練の実施回数を確認できるため喜ばれていた。
モフトレ以外では、カラオケ機材にプログラムされている歌謡曲に合わせた体操を実施している。馴染みのある歌に合わせるため、楽しみながら行うことができた。
個別機能訓練計画書は、日常の生活課題をアセスメントし定期的に作成、評価をすることができた。

（4）ご利用者に寄り添う姿勢と相手を尊重した接遇に努める。

ご利用時には心身の状態やご家庭のことも含め相談等に応じている。相談内容等については担当ケアマネジャーへ報告し情報の共有を図った。
ご利用者はデイサービスに来るのを楽しみにされている。その為、何度も通いたいと思ってもらえるよう、今後も努めて行きたい。

（5）非常事態の危機管理に努める

今年度は入浴時間に地震、火災発生を想定した訓練を行った。入浴時間帯を想定した訓練は初めてであったが、職員間で連携し避難誘導が出来た。また、地震や火災時の対応も確認しスムーズに行えた。
地域自治会会長との連絡協議会の開催は都合がつかず、開催できなかったが、今後も地域自治会とは情報共有を図っていく。そして、地域との支援協力を賜り、災害発生時には安全に利用者、職員が避難できる体制を作っていきたい。

（6）感染症予防

ご家族には感染防止に向け文書でご理解とご協力を求めた。ご利用者にはご家庭での検温、体調管理に努めてもらった。送迎時には手指のアルコール消毒車内の換気、送迎後には車内の消毒を行った。来苑時にはマスクの着用をお願いし、苑内では検温、定期的な換気、加湿管理、物品消毒にも努めた。
各家庭においては、新型コロナウイルスやインフルエンザに感染したと報告をもらっている。その際は、当苑においては新型コロナウイルスやインフルエンザ等の集団

感染はなかった。

（7）アクティビティ計画（心身活性化のための活動）の評価

テーブル上でパズルや塗り絵、間違え探し、線繋ぎ等の各種様々な脳トレ作業を用意している。また、グループ毎や全体で取り組む活動も行っており、日常生活の機能向上に繋がる多彩なプログラムを取り入れご利用者の皆様方に楽しんで頂いた。

苑内の行事では春、秋の外出、運動会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、忘年会、節分、ひな祭り会の季節行事を開催。その他にも演芸ボランティアの受け入れを毎月行った。

雄和地域の保育所との交流は、保育所と日程調整の協議を重ね、9 月に雄和中央保育所の園児による演芸慰問を開催することができた。園児には歌や踊りを披露してもらい、ご利用者からは笑顔と喜びの涙が見られた。

今後も苑内での感染防止対策を徹底しながら、活動できる行事やボランティアの受け入れを行い、楽しんで頂くように努めていきたい。

１．令和７年度利用状況（定員 30 名　月～金曜日営業）４月～11 月　定員 30 名
12 月～ 3 月　定員 18 名

	要介護度別利用者数　（延人数）							利用者数（人）	１日平均（人）	営業日数	稼働率（%）
	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5				
4 月	13	36	149	198	43	12	0	451	20.5	22	68.3
5 月	7	39	146	206	53	10	0	461	21.0	22	69.8
6 月	10	39	146	169	45	10	0	413	19.7	21	65.6
7 月	12	34	153	201	45	10	0	458	19.9	23	66.4
8 月	8	38	115	170	68	16	0	415	19.8	21	65.9
9 月	10	42	141	182	47	10	0	432	19.6	22	65.5
10 月	8	47	133	159	35	9	0	391	17.0	23	56.7
11 月	8	43	122	100	31	14	0	318	15.9	20	53.0
12 月	10	50	117	101	60	17	0	355	16.1	22	89.6
1 月	8	46	99	61	57	16	0	287	14.4	20	79.7
2 月	8	44	113	69	48	16	0	298	14.9	20	82.8
3 月	10	38	117	84	57	21	0	327	14.9	22	82.6
合計	**112**	**490**	**1,551**	**1,700**	**589**	**164**	**0**	**4,606**	**17.8**	**258**	**64.3**

２　新規契約件数　　単位：人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
1	2	1	3	1	0	1	1	2	1	2	3	18

（参考　R4 年度 16 件　R5 年度 23 件　R6 年度 21 件）

3　利用終了/中断　　単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3	3	0	4	1	5	0	5	2	2	1	0	26

4　体験利用者　　単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1	1	1	0	1	0	1	0	1	0	1	3	10

（参考　R4年度年1件　R5年度年12件　R6年度12件）

5　個別機能訓練加算Ⅰ（イ）(56単位)　　単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
399	163	170	131	86	114	101	81	62	0	0	0	1,307

6　個別機能訓練加算Ⅰ（ロ）(85単位)　　単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	252	200	282	283	266	235	176	215	0	0	0	1,909

令和8年1月から算定不可（人員配置基準により）

7　入浴介助加算（Ⅰ）(40単位)　　単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
380	389	347	383	329	332	301	227	241	201	222	238	3,590

8　送迎減算（-47単位)　　単位：回

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
13	14	13	15	10	2	6	8	4	5	5	4	99

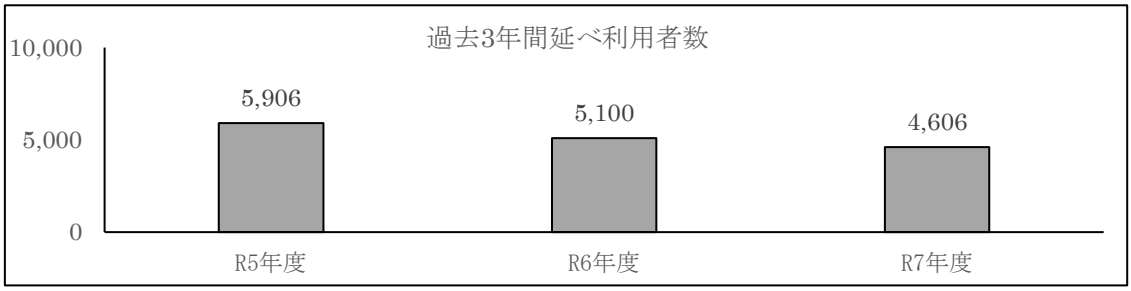
9　地区別実利用者数（令和7年3月末現在）　　単位：人

	川添地区	戸米川地区	種平地区	大正寺地区	他地区（畑谷）	合計
男性	9	3	2	4	0	18
女性	12	6	4	4	1	27
合計	21	9	6	8	1	45

○平均年齢　88.2歳　　最高齢者98歳　　☆ 最若齢者　67歳

10　過去3年間延べ利用者数

	R5年度	R6年度	R7年度
延べ利用者数（人）	5,906	5,100	4,606



11　主な行事・アクティビティ活動等の内容

月	行事・アクティビティ活動	今月の歌	実習/ボランティア
4月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 4/16～4/29　春の外出ドライブ	春よ来い・せんせい・上を向いて歩こう・恋する城下町・リンゴの唄・青い山脈・外山節・花	なし
5月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	高原列車は行く・ドンパン節・夫婦春秋・箱根八里の半次郎・茶摘・みかんの花咲く丘・愛燦燦・瀬戸の花嫁・斉太郎節・浜辺の歌	民謡基智会
6月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 6/25 さなぶり運動会	二人は若い・みちづれ・東京のバスガール・夢追い酒・川の流れのように・愛して愛して愛しちゃったのよ・マツケンサンバⅡ・黒田節・嫁に来ないか・蛍の光	桜雅会
7月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	夏の思い出・星影のワルツ・見上げてごらん夜の星を・憧れのハワイ航路・佐渡おけさ・港町十三番地・お祭りマンボ・たなばたさま・われは海の子・星に願いを	優扇会 心の唄ハーモニー ちびっこボランティア
8月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 8月20日　夏祭り	夏は来ぬ・上を向いて歩こう・孫・花笠音頭・東京ラプソディ・まつり・真っ赤な太陽・星影の小径・栄光は君に輝く	優扇会 歌と踊りのハーモニー 心の唄ハーモニー
9月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴ	高原列車は行く・旅の夜風・二輪草・炭坑節・リ	雄和中央保育園 阿部綾子

	ゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 9月18日　敬老会	ンゴの唄・月がとっても青いから・見上げてごらん夜の星を・ブルーライトヨコハマ・十五夜お月さん・もみじ	心の唄ハーモニー
10月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 10月20日～10月31日　秋の外出ドライブ	もみじ・365歩のマーチ・いつでも夢を・港が見える丘・東京ブギウギ・小さい秋見つけた・四季の歌・南部牛追い唄・東京五輪音頭・りんどう峠	心の唄ハーモニー
11月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	いつでも夢を・ふるさと・チャンチキおけさ・きよしのズンドコ節・月がとっても青いから・旅愁・銀座の恋の物語・蛍の光	なし
12月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 12月23日24日　クリスマス会 12月27日　忘年会	雪・雪国・北の宿から・津軽海峡・冬景色・細雪・いい湯だな・雪山賛歌・蛍の光	心の唄ハーモニー
1月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会	秋田県民歌・お座敷小唄・孫・北酒場・雪国・風雪ながれ旅・雪中花・冬のリヴィエラ・北の宿から・越冬つばめ	なし
2月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 2月3日節分	きよしのズンドコ節・お富さん・チャンチキおけさ・知床旅情・雪椿・北酒場・襟裳岬・銀座カンカン娘・越冬つばめ・雪の降る街を	なし
3月	グループ活動（塗り絵、卓上ゲーム、軽運動、軽体操、脳トレ、のの字探し、ビンゴゲーム、ビデオ鑑賞、クイズ、制作等）誕生会 3月3日ひな祭り	湯島の白梅・王将・高校三年生・栗生山脈・仰げば尊し・いい日旅立ち・リンゴの唄・恋の季節・この広い野原いっぱい・お座敷小唄	なし

○個別機能訓練

個々の自立した日常生活に繋がるような内容をグループ単位に実施

（転倒予防体操、口腔ケア体操、手指運動、歩行訓練、生活動作訓練等）

12　会議等

（1）職員会議（毎月１回実施）
（2）サービス担当者会議
（3）利用者事前訪問

13　各種委員会

（1）研修委員会（計２回開催）
年間計画作成等
①【施設内研修】
５月２９日（木）身体拘束、虐待防止、認知症及び認知症ケア
６月２６日（木）食中毒の予防と蔓延防止策について
７月２８日（月）避難訓練（非常災害時の対応）
７月３０日（水）倫理、法令遵守、プライバシー倫理
８月２６日（火）事故対応、リスク管理
１０月３０日（木）入浴介助加算に伴う研修
１１月２６日（火）平時から実践する感染症対策の基本

②【施設外】（伝達研修）
５月１３日（火）認知症利用者のリスクマネジメント
１２月　４日（木）～１２月５日（金）令和７年度施設等相談援助研修

（2）活動検討委員会（計９回開催）
年間行事や活動計画の策定と実施
４月１６日～４月２９日　春の外出ドライブ
６月２６日～６月２７日　さなぶり運動会
８月２０日　夏祭り
９月１８日　敬老会
１０月２０日～１０月３１日　秋の外出ドライブ
１２月２５日　クリスマス茶話会
１２月３０日　忘年会
２月　３日　節分
３月　３日　ひな祭り会

（3）保健衛生委員会（計３回開催）
利用者、職員の健康管理と予防対策、食中毒及び感染症予防対策
（インフルエンザ、ノロウイルス、新型コロナウイルス、消毒、換気等）
【施設内研修】
６月２３日（月）食中毒予防勉強会
１１月２６日（月）感染症予防と蔓延防止対策について

（4）防災対策委員会（計４回開催）
避難訓練１回実施（うち１回は利用者参加）、避難誘導確認、危険個所等確認、暖房機器確認
【訓　練】

７月２８日（月）総合避難避難訓練
（地域自治会長との災害時の協力体制会議は自治会長の参加ないため開催出来ず）

（５）サービス改善委員会（計１１回開催）
業務内容の見直し、業務分担表の作成
【施設内研修】
８月２６日（火）事例検討　送迎時のヒヤリハットについて

（６）給食委員会（計２回開催）
利用者の摂取状況や嗜好調査等の確認や見直し
５月８日（木）令和６年度計画について
２月１８日（木）令和６年度反省及び令和７年度計画について

（７）虐待防止検討委員会（計３回開催）
虐待を防止するための体制を整備
虐待の防止を啓発、普及するための職員に対する研修会実施
利用者の人権の擁護、虐待防止等のための措置を講じる。
年間計画作成等
【施設内研修】
５月 29 日（木）身体拘束、虐待防止について

14　介護サービス情報の公表　　令和７年 11 月 10 日

15　ボランティア受け入れ状況

月	名　　称（敬称略）	主な内容４
５月	民謡基智会（5/22）	歌・踊り（介護支援ボランティア）
６月	桜雅会（6/17）	歌・踊り（介護支援ボランティア）
７月	優扇会（7/10） 心の唄ハーモニー（7/15） ちびっこボランティ（7/23）	歌・踊り（介護支援ボランティア） 御所野小（市社協主催）
８月	優扇会（8/20） 歌と踊りのハーモニー（8/26） 心の唄ハーモニー（8/27）	歌・踊り（介護支援ボランティア）
９月	阿部綾子（9/18） 心の唄ハーモニー（9/25） 雄和中央保育所 園児慰（9/17）	敬老会依頼 歌・踊り（介護支援ボランティア）
１０月	心の唄ハーモニー（10/16）	歌・踊り（介護支援ボランティア）
１２月	心の唄ハーモニー（12/24）	歌・踊り（介護支援ボランティア）

花の家訪問介護事業所（第一号訪問介護）

【総　括】

訪問介護事業は「長年暮らし続けた地域で老後を迎える」という願いを受けて、各家庭を訪問して身体介護や生活援助を行い在宅での暮らしを支援している。

令和７年度の３月末での利用者人数は33名、うち雄和が14名、花の家ケアハウス９名、河辺６名、新屋２名、八田１名、御野場１名となっており距離的には皆15㎞前後である。車での移動は効率良い訪問でシフトを組んでいる。

今年度11月に新人のヘルパーが２名の入社し、春には長く在職してくれた１名が退職し現在５名体制ではあるが、今後の新人ヘルパーの定着を期待している。この先、事業所としてあらゆる業務を新人に教えている段階である。

限られた時間内での援助ではあるが、ヘルパーは利用者さん一人一人への応対が最も重要であり、個性を受け止め常に傾聴することを念頭に置いている。援助の合間には、それぞれの方のこれまで過ごされた長い人生のお話を伺い、笑いあり涙あり、その経験を共有させてもらい感慨深いものを感じ、私たちはその歩んでこられた道を理解し、これからも応援していきたいと考えている。

【重点事項】

（１）ケアプランに基づくサービスの提供

ヘルパーの訪問に当たっては、利用者ご本人とご家族からの希望をしっかりと伺い個別の援助計画を立て了解を得る。個々の状況に沿った計画の基にヘルパーが把握し訪問を行っている。

生活援助では掃除・洗濯・調理などであるが、入浴と生活援助の組み合わせの場合は、手際よくどちらもでかして時間内に終えなければならない。

（２）関係機関との連携

介護支援専門員や他の在宅サービス事業所との連絡、相談を怠らないにした。またサービス担当者会議等でサービスプランの確認、ニーズの把握に努めた。

（３）職員研修の充実

援助はマニュアルに添って各研修を行い、特に入浴介助では安全を重視しながら体調の観察、浴槽の出入り、入浴前後の水分補給など細かな配慮が必要である。

（４）苦情、相談への対応

ご利用者及びそのご家族からの苦情・相談に迅速に対応した。また不満な点や改善してほしい事などをよく伺い、把握することでサービスの向上に努めた。

（５）非常事態発生時の対応

昨年度から義務化されたBCP対応については研修を重ね、自然災害が起きた場合の緊急時対応、あるいはコロナ等の感染症が発生した場合の防御対策など、訪問困難な出来事が起きても、慌てることのないよう周知している。

1　介護度別利用者数（人）　　平均年齢　84.35 歳

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
要介護５	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護４	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護３	0	0	0	1	1	1	1	1	1	3	2	2	1.1
要介護２	12	12	9	10	10	9	9	9	10	8	8	9	9.5
要介護１	7	8	10	11	11	11	13	11	10	12	11	11	10.5
要支援１・２	13	13	15	15	14	14	12	12	14	14	13	11	13.3
計	32	33	34	37	36	35	35	33	35	37	34	33	34.5

2　家族構成別利用者数（人）

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
独居世帯	27	28	29	31	30	30	30	29	31	31	28	27	29.3
夫婦世帯	3	3	1	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2.2
同居家族	2	2	4	4	4	3	3	2	2	3	4	4	3.1
計	32	33	34	37	36	35	35	33	35	37	34	33	34.5

3　介護度別　訪問時間（単位：時間）

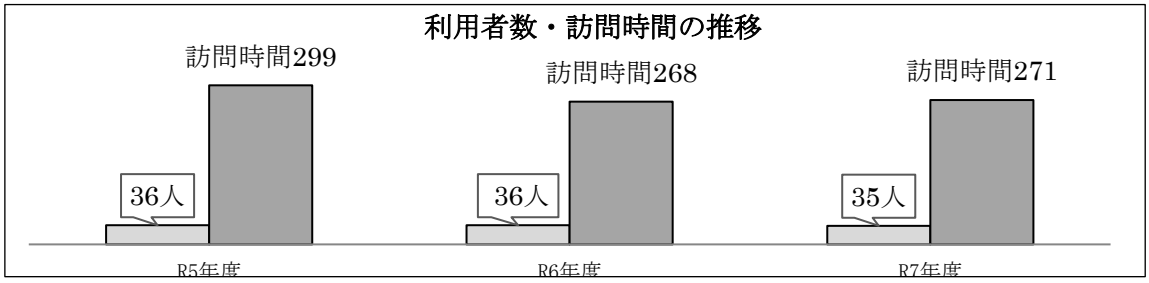
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
要介護5	0:00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00
要介護4	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00	0：00
要介護3	0：00	0：00	0：00	3：00	6：00	8：00	8：00	6：00	9：00	20：00	15：00	19：00	7：50
要介護2	130：47	129：18	84：48	95：19	84：21	87：18	85：44	89：39	102：06	81：33	70：37	89：33	100：37
要介護1	52：20	56：40	61：20	80：44	67：06	78：14	90：33	77：14	86：43	99：13	89：16	108：47	94：45
小計	183：07	185：58	146：08	179：03	157：27	173：32	184：17	172：53	197：49	200：46	174：53	209：20	194：11
支援1・2	73：28	68：31	77：31	80：29	64：34	70：29	67：35	61：36	78：32	75：33	78：36	69：33	73：28
計	256：35	254：29	223：39	259：32	222：01	244：01	251：52	234：26	276：21	276：19	253：29	286：53	271：44

４　活動区分別訪問時間（単位：時間）

月別	４	５	６	７	８	９	１０	１１	１２	１	２	３	平均
身体介護	29:00	26：00	13：00	15：00	10：00	15：30	17：27	16：52	18：22	18：21	18：52	26：49	18：48
身体生活	48：00	61：00	51：30	64：58	61：27	54：58	51：58	51：56	66：23	65：23	53：56	75：26	59：26
生活援助	105：07	98：58	81：08	99：05	86：00	103：04	114：52	104：05	113:04	117:02	102:05	115:05	99：52
総合事業	73：28	68：31	77：31	80：29	64：34	70：29	67：35	61：36	78：32	75：33	78：36	69：33	75：01

５　利用者数推移（人）と訪問時間の推移（年間平均時間）

年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
人数	36	36	35
時間数	299	268	271



６　職員会議、事業所内研修会

４月	・倫理及び法令遵守　・苦情報告、解決に向けて　・排泄介助方法
５月	・訪問介護員の接遇　・介護予防サービスの対応　・援助の仕方 ・洗濯、掃除など援助方法
６月	・事故発生予防、再発予防について　・事故発生等、緊急時の対応 ・安全な入浴介助方法　・糖尿病の調理
７月	・感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止　・管理者、責任者、訪問介護員役割 ・飲み込み、むせない食べさせ方の研修
８月	・現任研修　認知症対応他　・サービス提供責任者不在の緊急時対応 ・介護マニュアルの見直し　・車椅子など移動の介助方法
９月	・自己評価の検討会　・ヘルパーが訪問出来なかった時の対応 ・従業員法令遵守
１０月	・経営改善（利用者の意向、満足度検討）　・事業所の改善課題について
１１月	・サービスの質についての自己評価　・高齢者の食事づくり
１２月	・従業者からの相談、意見、苦情対応　・プライバシー保護

1月	・現任研修　・教育計画
2月	・介護マニュアルの見直し　・認知症対応
3月	・介護計画書、アセスメント（担当確認）　・事業者全体のサービス内容を検討

7　実習受入

令和7年7月7日～11日　5日間
日本赤十字秋田短期大学　　介護福祉学科　　介護実習生2名

8　その他

介護サービス情報の公表　　令和7年10月20日

花の家居宅介護支援事業所

【総　括】

令和７年度の要介護者のケアプラン作成数では月平均 135 件を目標とし、136.2 件と目標達成。要支援の総作成数は 318 件と昨年より 145 件増えた（月平均 26.3 件昨年度より 11.9 件増)。この一年で新規利用者件数は、昨年より 33 件多く 100 件の対応。新規件数は大幅に増え、要介護者の総件数は 1699 件と、昨年度より 121 件多くなり、要支援件数も 143 件増加した。事業所内ケアマネジャーが 4 人体制で、1 人当たりの平均件数は 42 件と増加している。令和 7 年度は、ケアプラン作成数が目標を上回り、新規利用者数も伸長するなど、事業所として大きな成果を上げることができた。しかし、その一方で「利用者の入れ替わりの激しさ」と「ニーズの多様化」により、現場スタッフの業務負荷はかつてないほど高まっている。ケアマネジャーの質が問われている昨今、新規受け入れに伴う調整業務やシャドーワークが増大し、スタッフの疲労感が顕著に表れ始めている。どれほど高い実績を上げても、支援の担い手が疲弊しては持続可能な運営は望めない。今後の最優先課題は、「バーンアウト（燃え尽き）の防止」と「業務環境の改善」と考えている。 利用者が在宅で安定した生活を送れるよう支援の質を維持しつつ、スタッフが一人で負担を抱え込まない体制を構築していきたい。最新の IT ツール活用による事務作業の効率化（ケアプランデータ連携システム）や、適切な役割分担、そして風通しの良い職場環境づくりを通じて、スタッフが心身ともに健康に、誇りを持って働ける事業所を目指します。

【重点事項】

（1）居宅サービス計画の作成

ご利用者及びご家族の意向を尊重し、サービス計画の作成を行った。サービス担当者会議の開催は介護認定の新規及び更新・区分変更又はサービスの変更時等に都度行った。

（2）介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の受託

令和７年９月より指定介護予防支援事業所の指定を受け、介護予防支援についても直接契約が図れるようになり、増収にも繋がった。また継続して地域包括支援センターからも業務受託を受け、より柔軟に介護予防支援を提供できる体制となった。

（3）関係機関との連携の強化

ご利用者及びご家族に対して保険、医療、福祉についての情報提供を行う。医療連携では利用者の体調相談で、本人の通院に同行、ケアマネがクリニックに訪問や書面でも相談を行った。入院時の情報連携も行っている。感染症対策で病院の対応も都度変更はあったが支障なく対応することは出来た。事業所等とも情報共有しサービス提供のため連絡調整を行った。

（4）職場研修の充実

各介護支援専門員の目標に沿った研修に参加した。外部研修も新型コロナウイルス感染症発生以降は、多くの研修がオンライン形式での開催が通常となった。事業所内研修は毎月の職員会議で研修計画に沿って実施することが出来た。

1　年間計画作成数

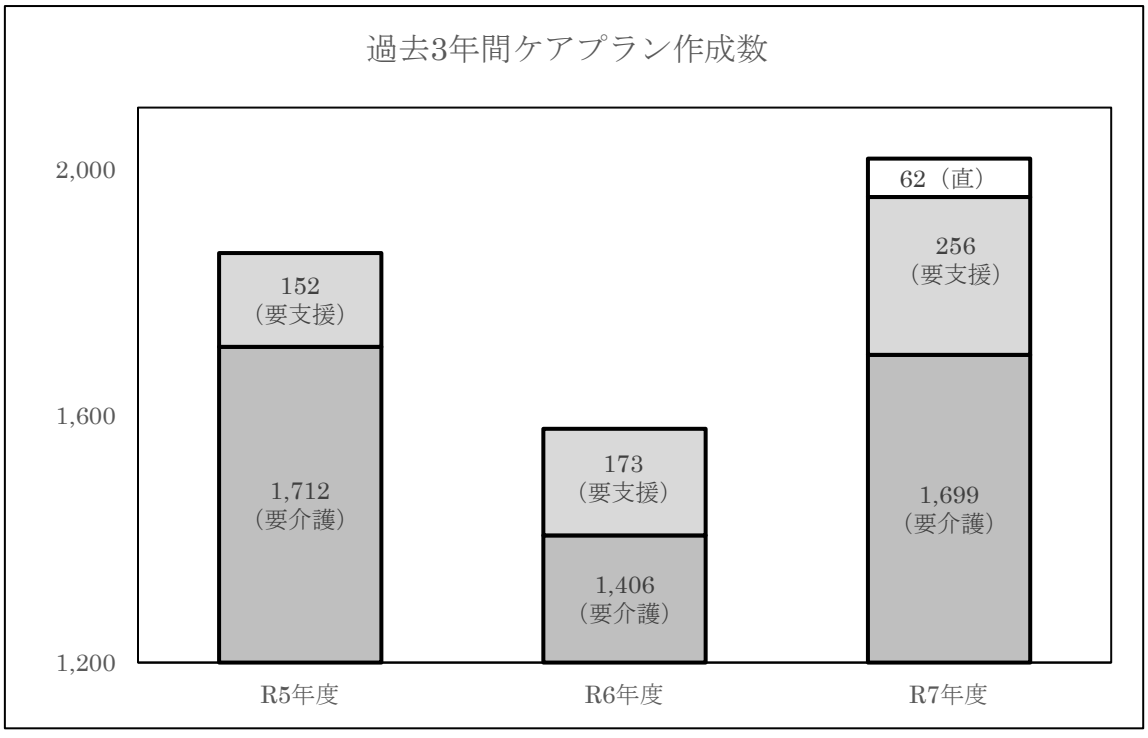
	年間合計	前年比	備考
延べ利用者数（要介護）	1,699 人	121 人増	月平均 141.6 件
延べ利用者数（要支援）	318 人	145 人増	月平均 26.5 件

2　要介護度別利用状況

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
利用人数（延人数）	114	204	788	388	275	197	51	2,017
比率（%）	5.6%	10.2%	39.2%	19.2%	13.6%	9.7%	2.5%	

3　年間計画作成数　＊総作成数うち（委託介護予防数）【直接介護予防】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5年度	160 (13)	163 (11)	160 (11)	153 (11)	150 (11)	162 (14)	151 (13)	145 (14)	148 (14)	152 (13)	160 (14)	154 (14)	1,864 (152)
R6年度	133 (11)	139 (12)	129 (12)	128 (12)	130 (12)	138 (13)	133 (14)	131 (15)	132 (17)	133 (17)	125 (19)	128 (19)	1,578 (173)
R7年度	129 (22)	134 (23)	127 (25)	138 (26)	137 (26)	147 【4】 (24)	145 【5】 (23)	143 【7】 (21)	150 【12】 (19)	145 【11】 (17)	146 【11】 (15)	156 【10】 (18)	1699 【62】 (256)



４　会議、研修等

（１）職員会議　（毎月１回開催）

・請求実績、業務実績、連絡確認事項、ケース検討、研修復命、事業内研修

（２）利用者に関する検討及び伝達　（毎朝開催）

・利用者に関する情報またはサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達

（３）サービス担当者会議（担当者が随時開催）

・年間実績　　266 件

・サービス事業所との連携、サービス内容の確認と検討

（４）委員会（随時開催）

・他事業所と連携しながら活動

（５）研修

・事業所内研修　　８回

・施設外研修復命報告等　５回

（６）合同事例検討会

・令和７年６月 11 日

参加事業所～御野場病院在宅ケアセンター・御所野の森居宅

・令和７年７月 11 日（１回目）、令和７年 11 月 11 日（２回目）

参加事業所～河辺荘居宅、サポートセンターおぐら、河辺社協

５　その他

介護サービス情報の公表　　令和７年 10 月 25 日

雄和地域包括支援センター緑水苑

【総　括】

年度途中に職員の退職に伴う人事異動はあったが事業計画に基づき包括職員、生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員が連携し地域住民への健康講話、出前講座やワークショップ、介護支援専門員や福祉職のスキルアップのための研修、勉強会、他職種連携、顔の見える関係を構築する会議等も計画通りに行うことができた。また、一人暮らしの方の個別訪問も従来通り行い、地域包括支援センターの役割、周知につながっている。

雄和地域包括支援センターは今後も与えられた業務を丁寧に行い、職員自身の援助技術や幅広い知識を身に着け、総合的な判断力を養い、高齢者や地域の方が住み慣れた地域で自分らしい生活が継続できるように役割を果たしていく。

総合相談支援業務

相談件数は 270 件でここ数年減少している。相談内容は介護保険のことが多く、入院中の方、在宅の方も身体状態、精神状態が比較的重症化してからの相談で介護認定後はケアマネジャーにお願いしサービス利用開始になる。

介護予防の段階では「まだできる」「集まりへの参加」は望まないという方が重症化してから相談するため介護予防事業の周知、参加が必要と考える。しかし

事業への参加を募っても 80 代から始める方はまれで 60 代～70 代の方々に周知を継続し参加していただくなど工夫する必要がある。

介護予防ケアマネジメント業務

介護予防として、「住み慣れた地域で元気に暮らす」ことを目標に、はつらつ教室、老人クラブ、自主サロンに対し健康講話・運動など出前講座をおこなった。民児協（民生委員）の研修に関して今年度は秋田市消防署に「119 番出前講座」の講師依頼をするなど他所と連携し専門性の高い研修会を開催できている

介護予防プラン作成は（要支援１、２）今年度 889 件（委託を含む）で相談業務同様に年々減少している。介護保険の相談はあるが相談時すでに要介護状態であること、担当していた要支援の方の状態悪化に伴い要介護状態になり昨年は花の家居宅介護支援事業所と他居宅合わせて 60 件お願いしている。

権利擁護業務

権利擁護については、困難事例１件に対応した。現在やや落ち着いて生活しているが今後も継続して関わっていく必要性がある。また、介護サービス事業所を対象に研修会（「虐待について」「社会保険労務士だからできる成年後見制度」）を今年度も継続した。また、一般の方の方や福祉職を対象に南圏域包括社会福祉士が企画した「南圏域シルバーセーフティ研修会」を警察の方とも連携し各包括の３地域で開催した。居宅介護支援事業所との勉強会では「既存の社会資源、今後必要な社会資源」「介護予防サービス・支援計画書の記載について」のテーマでおこなった。

包括的・継続的マネジメント業務

多職種連携の地域ケアネットワーク会議や南圏域包括主催の南部ケアマネ連絡会を行っている。また、認知症地域支援推進員と共に秋田東警察署管内さがしてネットワ

ーク会議や声かけ通報訓練も行い、社会資源情報の収集や、情報共有、顔の見える関係作りを行なっている

【食の自立支援事業】

独居、高齢者世帯に向けた「食の自立支援」事業（配食）は現在（R8/4）14名の方が利用されている。（17名中男性が６名で夫婦が１組、高齢世帯１組）
1回の配達は４食～９食と曜日により異なる。利用前に「お試し利用」を行うことで、配食の手続きを行ってから利用を中止する人が減っている。利用者の安否確認や調理負担の軽減に役立っている。

【はつらつ教室事業】

今年度は５ヶ所の会場で月７～８回開催した。利用者は45名、男性５名、女性40名で60代～90代の方が運動や脳トレなど様々なプログラムに取り組んだ。

参加者の高齢化や認知症の発症などもあり、参加者は若干減っているが利用者の世代が代わったことで利用者が増えている会場もある。「知り合いから誘われて参加する」が利用継続につながっている。

【高齢者生活支援体制整備事業】

生活支援コーディネーターの交代があったが、今までの活動に加え、新たな居場所や仲間づくりを企画してきた。R４年度から活動している「雄和ボランティアの会」は利用者が固定しているが活動が途切れることなく行われている。

男性の居場所と考えて企画していた「酒を嗜む会」の再開は熊の出没で安全を考慮し中止となったが「健康麻雀」は2年前に再開し12名～16名の参加で毎月開催している。またカラオケサロンも場所を変え６～８名で再開している

映画サロンは毎回40名～50名の参加がある。

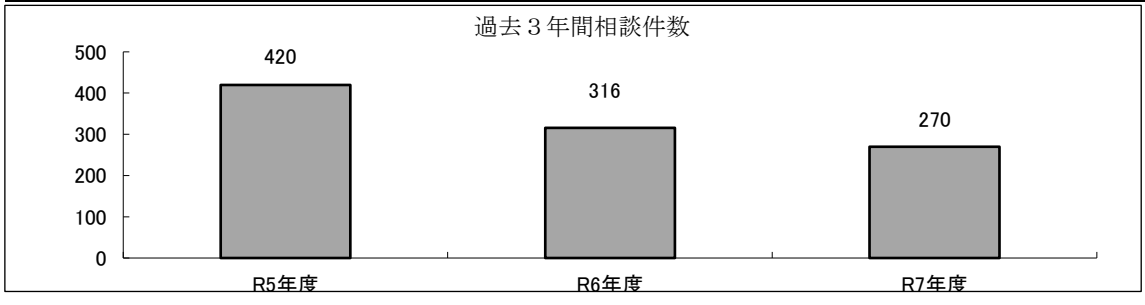
【認知症地域支援・ケア向上事業】

一人暮らしの方の訪問と見守り訪問、認知症に関する相談窓口として様々な研修等に参加し資質の向上に努めた。包括支援センター職員と連携し地域住民に対し認知症に関する知識の普及、予防や啓発活動、勉強会、小学生（４年）を対象に認知症サポーター養成講座をおこなった。

１　総合相談支援

（１）相談件数

	R５年度	R６年度	R７年度
合計	420	316	270



2　権利擁護

	R５年度	R６年度	R７年度
成年後見制度利用件数	0	1	0
消費者被害件数	0	1	0
困難事例件数	0	1	1
その他件数	0	0	0
合計	0	3	1

（虐待又は虐待の疑い）

・令和６年度 新規 ３件　 継続　０件

・令和７年度 新規 ０件　 継続　０件

3　地域包括ケア会議

	R５年度	R６年度	R７年度
開催回数	5	3	5

・令和７年度内訳　個別ケア会議２回
　　地域ケアネットワーク会議２回
　　地域ケア会議１回

4　高齢者福祉サービス等申請代行、地域連携・他職種連携など

	R５年度	R６年度	R７年度
①高齢者福祉サービス等申請代行件数	113	108	121
②地域連携・他職種連携など件数	17	15	32

①緊急通報システム、食の自立支援、介護申請ほか

②民生委員など会合ほか

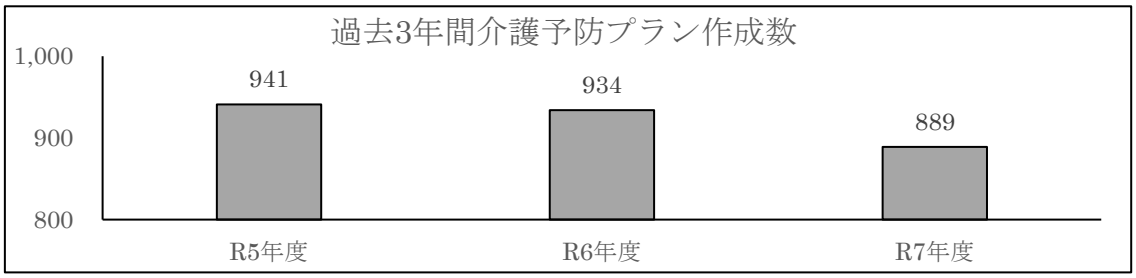
（１）研修会、地域連携など内容

・３職種情報交換会、包括/在介連絡協議会研修会、他各種研修会(オンライン有)
・自主活動グループ講座・はつらつ教室出前講座・老人クラブ出前講座
・雄和地区社協への協力（生き活きの集い：独居者対象事業)
・民生児童委員定例会（年７回参加)
・福祉懇談会
・グループホーム運営推進会議（つばき苑、赤とんぼ)
・小規模多機能型施設運営推進会議（えがお)
・地域密着型デイサービス運営推進会議＊ゆうわの里（年０回)

5　介護予防プラン作成件数（要支援１、要支援２）

＊Ｒ７年度　委託事業所は６事業所

	R５年度	R６年度	R７年度
①プラン作成（延）件数	941	934	889
②プラン作成月平均件数	78.4	77.8	74.0
③プラン委託月平均件数	26.9	24.3	29.5
③総合事業件数	339	331	265



6　はつらつ教室（月７～８回開催・５ヶ所）

・利用者実人数 45 名　（うち男性５名　女性 40 名）

7　食の自立支援（配食サービス・週３回まで）

＊利用者負担 700 円　秋田市委託料 210 円　（週４回から自費 750 円）
＊利用料変更は R7/10 月より

（１）令和７年度月別配食サービス実績
・利用人数は 14 人（R８．３月時点）
自費利用（327 食）も含め複数回利用の方が増えている。

（２）過去３年間配食サービス実績（自費利用含む）

	R５年度	R６年度	R７年度
延食数	2,174	1,996	1,755

8　高齢者生活体制整備事業(生活支援コーディネーター)

（１）アウトリーチ・ネットワークの構築（高齢者の居場所や見守り体制の構築）
①オープンガーデン
・花壇等への植付け、草取り、交流会、花壇見学会、花の撤去作業、オープンガーデン反省会等　延参加者　37 名(R６年度 24 名)
②ウォーキング
・概ね月１回５回実施　延参加者 65 名（男３名女 62 名）（R6 年度　63 名）
③カラオケサロン
・R７．８月～８回延べ 45 名（男 5 名、女 40 名）・R6 実施なし
④健康麻雀　11 回実施　延参加者 179 名（R６年度実績なし）
⑤酒を嗜む会　開催なし（R１年度　３回　30 名）
⑥ペタンク　第１、第３月曜日　延参加者 110 名（R6 年度　延参加者 103 名）
⑦協議体委員会（雄和地区各種団体から構成、計 13 名）
・年４回開催　　関係機関とのネットワークを図る
⑧陶芸教室（いやしろち窯）
・R７．５月～６月開催４回１コース　延参加者　14 名（R６年度　30 名）
⑨映画サロン「銀幕のしらべ」
・月１回　12 回実施延参加者 492 名（男 15 名女 477 名）（R6・12 回 414 名）
⑩アロマリップ教室　１回　女性 14 名

（２）地域資源の把握や創出（地域住民により地元資源を探り出す）

①ワークショップ

・Ｒ７．10 月、12 月（平沢地区）　延べ 30 名

（３）地域づくりの意識の統一（地域が一体になり意識の統一を図る）

①ＰＲ用広報誌発行

・ささえあいだより　年１回発行（５月）雄和地区全戸配布

（４）その他（他圏域地域包括支援センターとの情報交換会及び研修会等）

・生活支援コーディネーター情報交換会、情報交換会